



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

プレスリリース

Press Release

Date : 2018.02.20

表題：自らの得意分野を活かして地域に貢献するためのアクションへ

「ぐんまで高齢期を主体的に生きるために」

実践交流・意見交換会

平成 29 年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

ぐんまでむかえる高齢期に備える――応援の盲点となっていたのは「地域で感じる生き甲斐」

群馬大学は、平成 25 年度より定住外国人のみなさんが、日本で高齢期を主体的に生きるためにはどのような日本語を、どのような目的で学んでいけばいいのかを模索し、取組を進めてまいりました。お陰さまで、その取組は、文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業として継続的に選定をいただき、その内容を充実させることができました。

その取組は、「年金」「介護」「健康」「冠婚葬祭」「防災」「安全安心」など多岐にわたり、地域関係者のみなさまに多大なお力添えをいただけてまいりました。本年度はこれらの実践の構築をもとに、生活者としての外国人住民にとって、ぐんまで過ごす高齢期に備えるためにさらに必要となることは何かを検討したところ、ぐんまで高齢期を過ごすうえでの「生き甲斐」であることだという結論に至りました。

定住外国人のみなさんも、自分が生活している地域で役に立ちたいという思いがあります。その思いを地域につなぎ、地域のみなさんと交流し、自分が役に立っているという思いを持ってもらう。そのために、日本語が不可欠なコミュニケーション・ツールとなることを体感し、学習意欲を高めてもらいながら、主体的に地域貢献活動に参画してもらうという仕組みづくりと実践を、今年度の事業で実施しました。



【お酒班】川場村の土田酒造で日本酒の作り方を学ぶ

定住外国人のみなさんの興味関心や得意分野を活かした、「地域貢献活動」の展開

そこで、活動の舞台とさせていただいたのが、群馬県利根郡川場村です。川場村は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催でアメリカ選手団のホストタウンとして登録され、多様な国々にルーツを持つ多くの外国人訪問客が観光を目的に来ることが予想されます。この川場村の訪問が、外国人の視点でも楽しめるようにするにはどのような方策が考えられるのか、どのようなイベントや紹介の仕方をすればいいのか、など事前調査をし、12月には1泊2日で現地を訪問し、地域のみなさまと交流をさせていただきました。このたびご案内差し上げるのは、その成果報告会です。

本事業で取り組んだテーマは、「ウォーキング」「料理」「お酒」。成果報告会では、これら3つのテーマについてお世話になった外部指導者のみなさんや川場村むらづくり振興課長様をお招きし、外国人学習者が地域日本語指導者の指導のもと成果をご報告します。外国人定住者を活用した地域貢献活動、あるいは、地域日本語教育プログラムの振興の一環としてご取材いただけましたら幸いです。



【ウォーキング班】川場村で、地元のインストラクターさんとノルディックウォークを体験

実施期日等

日 時 平成30年2月25日(日) 12:00~16:30

場 所 群馬大学太田キャンパス 4階 研修室1
(太田市本町29-1)

参 加 者 外国人学習者 22名 (ペルー16, ブラジル6)
地域日本語教室指導者・ボランティア 12名
*うち 群馬大学教職員2名・多文化共生推進士4名
事業の運営委員等 5名
学生サポーター 1名

* 発表テーマ等 詳細は別紙「実施要項」のとおり



【料理班】川場村の方たちへ「りんご」「かぼちゃ」を使った母国の料理を作り、レシピを紹介

問い合わせ先： 結城 恵 (群馬大学 大学教育・学生支援機構 大学教育センター 教授)

TEL/FAX : 027-220-7382

e-mail : pcdc@ml.gunma-u.ac.jp